

“伝承する” ということ

伝統文化子ども教室を通して



原稿執筆者

まちかど特派員
杉山 祐子(水口町)

「今の30代から50代の人たちは、日本の
伝統文化が途切れてしまっている世代です。」

『伝統文化子ども教室』第1回目、先生
の挨拶での言葉です。まさにそれって私た
ちの世代！確かに私は茶道も華道も習っ
たことがない！作法も知らない！！子ども

の付き添いとして座っていた私は、この言
葉にドキリとしました。

『伝統文化子ども教室』は伝統文化に
触れる機会を子ども世代にどんどん与
えていこうという文化庁の方針のもと、各
地で開催されている教室です。地域によっ
て和太鼓・布細工・日本舞踊・着付け等の
様々な内容があり、水口では茶華道教室
(富永紀美子社中)が昨年より実施され
ています。

「休まず続けること」というのが先生か
らの約束事でしたが、それどころか月1回
の稽古日が子どもも私も楽しみでした。
それは日常では味わえない緊張が感じら
れる場だったからかもしれません。

前半の茶道では、夏でも“凜”とした空
気が漂っていました。汗をふきふき駆け込
んできた人も急におしとやかになれる、そ

んな雰囲気がとても心地よかったです。私
と同じく親子で参加されていた大堀さん
は、唯一のお父さん。「仕事で外国の人と接
することが多く、日本の文化を説明でき
るようになりたくて来ました。」と、子ど
もたちと並んで、にこやかにお茶をいただ
いておられました。「続けて、本格的に習っ
てみたい。」と言っておられたのが印象的
です。私にとって茶道の一番の魅力は、「二つと
つ」の動作に意味があり、周りの人や物に対
して感謝の心で接するのを学べることだ
でした。そういう心遣いが気持ちよくやりと
りできる場だからこそ、また行きたいと思
えたのではないのでしょうか。

“伝承する”ということは、動作や言葉
を通じて、人の心をつなげていくことなの
かもしれません。もしかしたら、伝統文化
の他にも途切れかかった糸があるのかも。
そう思うと、いろいろなことが浮かんできま
した。お盆・お正月を中心とする年中行事、
とてもやさしい響きの方言、食文化、幼い
頃の遊び……。この教室への参加は、途切れ
かけた糸をしっか
り結び直し次の
世代に伝えていく、
という重要な役
割に気づかせて
もらえた貴重な
経験でした。

子どもの自由な発想もOKです(後半、華道での様子)



お茶を点てるのも難しいね



ちょうだいします



お茶を味わう皆さん